

公益財団法人 福岡アジア都市研究所 都市政策資料室

URC資料室だより NO. 93 平成28年5月号

〒810-0001 福岡市中央区天神 1-10-1 福岡市役所北別館 6 階
TEL : 092-733-5707 e-mail : library@urc.or.jp福岡アジア都市研究所は、
福岡市を中心に産学官が協力し
て設立した研究機関です

目次

◆URC資料室ニュース

平成 28 年度 第 1 回ナレッジコミュニティ開催報告・・・1

◆URCニュース

①新職員からのご挨拶・・・・・・・・・・・・・1

②平成 28 年度 市民研究員を募集開始・・・・・・・・・・・・・2

③2016 年度「アジア都市景観賞」募集開始・・・・・・・・・・・・・2

④研究紀要『都市政策研究 第 18 号』論文募集中・・・・・・・・・・・・・2

◆今月のおすすめ

①URC 報告書 2 冊

『発展する都市/衰退する都市』・・・・・・・・・・・・・3

『FUKUOKA GROWTH 2016』・・・・・・・・・・・・・3

②都市と国土計画に係る国際ガイドライン・・・・・・・・・・・・・3

◆URC メディア紹介情報・・・・・・・・・・・・・4

◆編集後記・・・・・・・・・・・・・4

◆「資料速報 平成 28 年 4 月受入分」 別添

◆URC資料室ニュース

第 1 回ナレッジコミュニティ「【東アジアのビジネスハブ】を目指して」を開催しました！

新たな交流スペースのお披露目を兼ねて、平成 28 年度第 1 回ナレッジコミュニティを開催しました。



これまで当資料室は、平成 18 年度からミニセミナーを開催してまいりましたが、今年度から交流を重視して、講演会と交流会の 2 本立て

の新たな事業にリニューアルいたしました。

講師による話題の提供をもとに、講師と出席者、出席者相互、資料室の資料とのさまざまな出会いに交流ができ、お仕事や日常生活を活力あるものにしていただけることを願っての開催です。

リニューアルの第 1 回目は、平成 25 年度から URC 内に事務局を移し、4 年目を迎えた福岡地域戦略推進協議会(FDC)のご紹介を、「東アジアのビジネスハブを目指して」というタイトルで、豊島徹浩ディレクターにご講演いただきました。講演の前には、ナレッジコミュニティ開催の経緯を中沢浩副理事長がご説明いたし、講演後は、交流スペースに会場を移し、交流会を行いました。

交流会では、ご参加の皆さまと講師や主催者、ご参加の皆さま相互の語らいの中、昨年度の自主研究報告書

「発展する都市/衰退する都市」や「FUKUOKA GROWTH2016 ドキュメント」の発行を担当者自らご披露することができましたし、資料室に所蔵する FDC 関連の資料をご紹介させていただくことができました。



初めての開催で、行き届かない点が多々あったと思いますが、講演会後の交流会では、意見交換で考察を深めることができました。また、何より、「皆さんとの交流で人的ネットワークの広がりが期待できます。次回も是非参加したいと思っています。」とのご意見もいただきました。このような声を励みにしながら工夫を重ねていきますので、皆様のお力添えでより良いものにお育て下さいましたら幸いです。

ご出席の皆様、誠にありがとうございました。

写真出展：URC撮影（山崎三枝 司書）

◆URCニュース ①新職員からのご挨拶
主任研究員 山本美香

4月1日付で、JR九州より出向して参りました主任研究員の山本です。「URC都市セミナー」及び「ナレッジコミュニティ」の企画運営、研究紀要「都市政策研究」の企

画編集などを主に担当しております。これらの事業を通じて、当研究所の研究成果や事業内容をより多くの方にとって頂き、また理解を深めて頂けるように、業務を遂行して参りたいと思います。皆様、何卒宜しくお願い申し上げます。

総務課調整係長 中島 賢一

福岡市から派遣により URC の調整係長として赴任しました中島です。民間の IT 企業を経由し、福岡市にて IT やコンテンツ産業振興、スタートアップ支援を行ってまいりました。

福岡市は元気で住みやすいまちを、次のステージへと飛躍させる「FUKUOKA NEXT」を推進しています。これまで培ったスタートアップ支援などの経験も活用しながら、よりよいまちづくりに貢献できるよう努めてまいります。

4月14日に発生した熊本地震で被災された方々には心よりお見舞い申し上げます。熊本出身ですので、とても胸の痛む思いです。URCとして熊本出身者として少しでもお役にたちたいと思っております。

国際視察・研究受入担当 李英雄

4月1日から国際視察・研究受入を担当することになりました李(イ)と申します。以前私は、福岡市にある民間

②平成28年度の市民研究員を募集します。

5月9日から6月10日まで、「さらなるグローバル化時代に向けての福岡市のまちづくり」をテーマに、市民研究員を募集します。興味・関心をお持ちの方は、ぜひご応募ください。また、皆様のご家族や友人・知人の方にも、ご案内をお願いします。

「市民の皆様が、日頃、感じ、考えておられる、(1) 成長するアジア地域の需要を取り込むアジアビジネスのあり方、あるいは(2) 国際都市としての各種都市施設

③2016年度「アジア都市景観賞」の募集を開始しました。

「アジア都市景観賞」は、アジアの人々にとって幸せな生活環境を築いていくことを目標に、「国連ハビタット福岡本部」、「アジアハビタット協会」、「福岡アジア都市研究所」、「アジア景観デザイン学会」の4団体の共催によって2010年に創設された景観に関する国際賞です。今年も、アジアの景観をリードし、他都市の模範となる優れた案件をアジア各国から募集します。たくさんのご応募をお待ちしております。

主な予定

2016(平成28)年6月末	応募申請期限
2016(平成28)年8月上旬	予備審査会
2016(平成28)年9月上旬	最終審査会
2016(平成28)年10月下旬	授賞式 (中国：銀川市)

④URCの研究紀要『都市政策研究 第18号』の論文を募集中です。

平成28年12月発行予定の『都市政策研究 第18号』では、論文を募集しています。投稿期限は、査読を要する論文は8月末日、査読を要しない論文は9月末日です。投稿資格は原則として、URC および福岡市職員、または賛助会員ですが、大学の研究者等で編集委員会が認める場合にはこの限りではありません。

論文の内容は、都市政策に関連する研究成果をまとめ

の貿易会社で海外営業と貿易実務を担当しながら、国際経済に影響を与える人材になることを目指してまいりました。そして、今回は公益財団法人福岡アジア都市研究所で、福岡市が提案している5分野(都市景観、高齢社会、水資源、環境、防災・消防)の国際視察・研究プログラムを、アジアの人々にできるだけ多く紹介させていただきたいと思っております。

私が経験した福岡市は、交通環境やマナーをはじめ、社会的にも、経済的にも人が住みやすい街でありました。綺麗な都市景観や環境、高齢社会に向けたお年寄りが住みやすい都市、また先進的な水資源施設など、これはアジアの人々にとっては大変魅力的な分野だと確信します。このように、美しい福岡の価値を高めることと共に、アジアの人間社会に貢献できるように、その一員として努力していきたいと思っております。そして、観光資源が多い九州に、その中心である福岡に、大勢の観光客が訪れて飲食、宿泊、買い物などで、福岡地域経済発展にも有益になれるように、今後も国際視察・研究を色んなアジアの国へPRしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

(インフラ)整備のあり方、(3)外国人にとっても住みやすい多文化共生型社会の実現方法など、新たな段階に向けたグローバルな都市政策について研究したいとお考えの方を市民研究員としてお迎えすることといたしました。皆様のご応募をお待ちしております。」(平成28年度募集要項より)

都市政策資料室では、アジア関連の本を多数用意しています。どうぞご利用ください。(中島賢一 調整係長)



昨年の授賞式の様子

(夏井圭介 主任研究員)

たものとし、特に福岡市の都市政策に対する何らかの提言的な内容を含むことが望ましく、新規性または有用性のあるもので、原則として未発表のものに限ります。

投稿規定の詳細はURCのHPに掲載しています。なお、投稿をご希望の方は、URCまで6月末日までに、予めご連絡ください(E-mail: toshiseisaku@urc.or.jp)。)

(山本美香 主任研究員)

◆今月のおすすめ

①URC発行 研究報告書2冊

『発展する都市/衰退する都市』（福岡のグローバル競争力向上に関する研究報告書）

この度、(公財)福岡アジア都市研究所では、平成27年度総合研究の研究成果を取りまとめましたので、ご紹介いたします。

日本国内は少子高齢化と人口減少を迎えている中、福岡市では今後20年間は人口増加が予測され、国内でも活力ある都市として注目されています。しかし、福岡市は少子化による生産年齢人口の減少期を迎えており、一方でグローバル化や科学技術イノベーションの急速な進展からも、未来の社会状況は現在とは大きく異なる可能性が高いといえます。そのような中で、今私たちは、未来の変化を見据えた対応についてあらゆる世代を巻き込んで議論し、課題を共有しつつ対応策の実現に取り組んでいく必要があります。

そこで、本研究は、今から25年後の2040年を想定した「福岡の未来シナリオ」を描くことをテーマに、「シナリオ・プランニング」のフレームワークを応用することで、都市を構成する6つの分野それぞれで、福岡の未来に向けた「発展」あるいは「衰退」に至るシナリオを描きました。

6つの分野は、①「人口・経済」、②「産業・生産力」、③「スタートアップ・イノベーション」、④「人材・ダイバーシティ」、⑤「交流・インバウンド」、⑥「空間・モビリティ」です。一例を挙げると、各分野の「発展シナリオ」では、「グローバル創業・雇用創出特区」を通じた開業率の上昇や知識創造型産業の育成、さらに世界各国・地域の優秀な人材の取り込みの進展、「天神ビッ

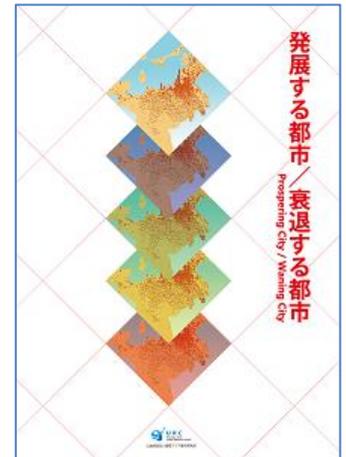
グバン」による産学官連携イノベーション拠点の創出、イノベーションによるインバウンドの取り込みの強化、シェアリングの普及や公共交通機関の連携による都市空間の整備の進展などを描き出しています。

また、都市は発展させるものであり、それは都市ユーザーの創意工夫によって実現します。福岡の発展戦略は、多くの都市のユーザーから導出されることが望ましいと考えられます。そこで、本書の文末には、「福岡の発展戦略」として、本研究にご賛同くださった有志の皆さまからいただいた、各シナリオに関するご意見やアイデアも掲載しました。

今回発行した『発展する都市/衰退する都市』は、全ページ日本語・英語併記で、グラフや図を多用していません。現在、URC ホームページにて無料で閲覧・PDFダウンロード可能です。多くの方に読んでいただき、福岡の未来について議論を深めていただくことを願っています。

URL:<http://urc.or.jp/h27sougu-vision>

(中村由美 研究員)



『FUKUOKA GROWTH 2016』データでみる福岡の成長 ドキュメント

この度、さまざまな指標で福岡市を紹介するデータブック「FUKUOKA GROWTH 2016」を発行しました。2年前の「Fukuoka Growth2013-2014」では、福岡市の成長可能性を示すデータをご紹介しました。そして今、福岡市が着実に成長を続けている事実(ドキュメント)を、再びデータで紹介しています。

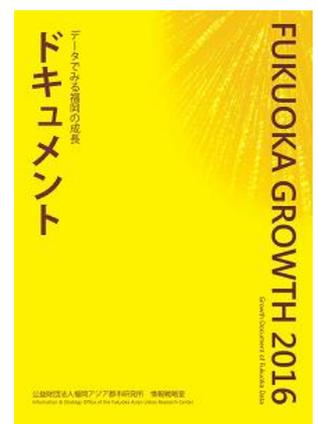
「FUKUOKA GROWTH 2016」は、日英併記となっていますので、国内だけでなく、海外の方に福岡市を紹介する際にも、大いにご活用いただければ幸いです。冊子は、配布用として当研究所の資料室にも若干数置い

ておりますので、必要な方は、在庫確認の上、都市政策資料室へお越しください。なお、当研究所ホームページでも公開しています。

URL :

<http://urc.or.jp/fukuoka-growth-2016> (PDF)

(情報戦略室 島山尚久研究主査・山田美里研究スタッフ)



②『都市と国土計画に係る国際ガイドライン-INTERNATIONAL GUIDELINES ON URBAN AND TERRITRIAL PLANNING-』

日本語版 国連ハビタット福岡本部 (アジア太平洋担当) 2016.3 発行

毎日新聞 (5/7 朝刊 22p) で記事掲載されました。国連ハビタット発行のガイドラインを同福岡本部からいただきました。(前号で3/25 西日本新聞記事も紹介済)

ガイドラインの策定チームには、日本代表として、野田順康特別研究員が参加しています。

本書は昨年、ナイロビで発行されましたが、この度、国連ハビタット福岡本部 (アジア太平洋担当) が日本語版を発行されました。

後半はアルゼンチン、サンタフェとモザンビーク、ニアサ州リジンガ、オーストラリアメルボルン等26の優

良事例集になっており、日本からは唯一福岡市がコンパクトで暮らしやすいまちづくりを評価され、選ばれています。

以下、序文の一部と目次をご紹介します。

(前略)「本ガイドラインは、2015年4月23日の管理理事会決議(25/6)で承認されました。同時にこの決議では、「本ガイドラインに関心のある加盟国がこれを利用し、必要に応じて各々の国や国土の状況に合わせて適用し、さらなるツールや評価指標の開発を行うことができるよう、国際的な金融機関、開発期間及び国連ハビタットに対し支援を」求めています。」

(中略)

「本ガイドラインが対象とするのは、各国政府、地方自治体、市民団体、都市計画の専門家など多岐にわたります。本ガイドラインは、こうした多様化主体が人間の居住環境の構造と機能をかたちづくっていくうえで担う役割を重視しています。私は、本ガイドラインが、コンパクトで包摂性に富む社会を実現し、また、統合的で接



続性に優れた都市・国土の建設にインスピレーションと指針を与えるものであることを切に願っています。

国連ハビタット事務局長 ジョアン・クロス

目次

- I. 背景
 - A. 目的
 - B. 定義と範囲
 - C. 背景と根拠
 - D. 準備とプロセス
- II. 都市と国土計画に係る国際ガイドライン
 - A. 都市政策とガバナンス
 - B. 持続可能な開発に向けた都市と国土計画
 - B1. 都市と国土計画及び社会開発
 - B2. 都市と国土計画及び持続可能な経済成長
 - B3. 都市と国土計画及び環境
 - C. 都市と国土計画の要素
 - D. 都市と国土計画の実施とモニタリング

福岡市のPRのために、本書を大いに活用させていただきたいと思っています。(山崎三枝 司書)

◆URC メディア紹介情報—最近1か月の情報を中心に—

◎新聞

(2016/4/26 西日本新聞 朝刊 13p)

福岡市美術館 休館、改修の前に「これからの美術館」を考える 3氏招き 来月21日トークショー
市民研究員 OBの藤浩志さんが出演するイベントの開催予告

(2016/4/20 秋田魁新報 朝刊 31p)

想像力豊かに遊んで 不要なおもちゃ、アートに変身！
秋田市のフォンテ、5月9日まで
市民研究員 OBの藤浩志さんが企画したイベント開催中

(2016/4/20 西日本新聞 朝刊 32p)

「都市劇場」の成熟 キャナルシティ20年 下 進化 娯楽の空間 次の舞台へ
URC OG 佐々木喜美代さんが元タウン誌の編集長としてコメント

(2016/4/15 西日本新聞 朝刊 20p)

インドとの交流深めるイベント あす、天神中央公園
URC OBのクマル・ダルメンドラさんが実行委員長を務めるイベントの開催予告

(2016/4/10 西日本新聞 朝刊 3p)

提論 明日へ/龍造寺健介さん(本多機工社長) SNS (会員制交流サイト)外国人材獲得に活用を
URC が参加する人材マッチング事業が紹介される。

◎雑誌

(2016/5/1 ふくおか経済 2016年5月号 vol.333)

82~102p 特集:「FUKUOKA NEXT」さらに前進 期待される実務能力

83p 城南区長に梶原信一氏 前常務理事・事務局長

が紹介される。

(2016/5 月刊不動産流通 2016年5月号)

40~47p 特集:低コストで入居率アップ 賃貸住宅ピンポイントリフォーム

42p 職住近接志向の男性に“バイクハンガー”が人気

43p “DIY用の壁”がアレンジしやすいと好評
市民研究員 OB 吉原勝己さんが事例報告

(2016/4/20 avanti 2016年5月号 通巻269号)

34p 今月の旬男 福岡地域戦略推進協議会事務局長 石丸修平さん(36) 産学官民で手を取り合い FDC ならではのモデルを生み出し福岡から世界を変える。

(2016/3/26 週刊ダイヤモンド 2016/3/26 特集:ニッポンご当地まるごとランキング)

42~53p Part1: 公的統計でここまでわかる

48~49p 地域ピックアップII 福岡: 京都や神戸を抜き去り第五の都市に躍り出た秘密

URCの天神ビッグバンによる経済効果試算が引用される。

◎ラジオ

(2016/4~毎週金曜日ローカルラジオ放送こみてん 18:00~18:25) スポガで Ready Bowl!!

(スポーツガーデン香椎、スポーツガーデンテラス久留米、大橋シティボウル) 市民研究員 OB 吉田勝さんがパーソナリティを務める。